アフターサービス

■サービス(修理、点検)を依頼される前に

①6 ページの「故障、異常の見分け方と処置方法」「このような時は故障(異常)ではありません」の項をみてもう一度ご確認ください。

②正しいご使用にもかかわらず万一、故障をした場合は、お買い上げの販売店、お客様相談室または下記の岩谷産業事業所にお問い合わせください。

お客様相談室　フリーダイヤル 0120-156269 (月曜～金曜 9:00～17:15 (祝日、弊社休業日を除く))
FAX 03-5405-5637

■保証について

①このこんろには「保証書」がついています。保証書はお買い上げの販売店で発行しておりますので、お買い上げ日、販売店名、扱者印が記入されていることを確認して、お受け取りください。所定事項の記入がないと無効となりますので、記入がないときはお買い上げの販売店に申しつけてください。

②万一、故障した場合は、保証書の記載内容により、保証期間内は無償修理いたしますので、大切に保管してください。

③保証書に記載されている無償修理規定以外は有償になります。

アフターサービスをお申しつけのときは、つぎのことをお知らせください。

- ●ご住所、ご氏名、電話番号
- ●商品名、型式名(本体銘板のもの)
- ●不具合内容(できるだけ詳しく)
- ●ご購入日

■補修用性能部品の保有期間について

このこんろの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)は製造打ち切り後、5年間保有しています。

★保証書をご提示の上、アフターサービスをお申し込みください。

保証書

イワタニカセットフー

型　名	アモルフォ②N	製造番号	お名前
保証期間 本体	一年	お買い上げ日 □年□月□日 ～ □年□月□日まで	ご住所 お電話　(　　　)

取扱販売店・住所・電話番号

本書は、本書記載内容で無償修理を行うことをお約束するものです。
お買上げの日から上記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

Iwatani 岩谷産業株式会社

〈無償修理規定〉

1　取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買上げ販売店(修理申出先)が無償修理致します。

2　保証期間内に故障して無償修理を受ける場合には、商品と本書をご持参ご提出の上、お買上げ販売店(修理申出先)に依頼してください。

3　ご贈答品等で本保証書に記入してあるお買上げ販売店に修理がご依頼できない場合には、下記所在地の一覧表をご覧の上、お近くの岩谷産業株式会社へご相談ください。

4　保証期間内でも次の場合には有償修理になります。
(イ)使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ)お買上げ後の落下等による故障及び損傷
(ハ)火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害による故障及び損傷
(ニ)一般家庭用以外(例えば、業務用の長時間使用、車輌、船舶への搭載)に使用された場合の故障及び損傷
(ホ)保証書の提示がない場合
(ヘ)保証書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、或いは字句を書き替えられた場合

5　保証書は日本国内においてのみ有効です。

6　保証書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買上げの販売店または下記の岩谷産業にお問い合せください。

岩谷産業株式会社　カートリッジガス部
〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8　電話 03 (5405) 5615
お客様相談室：フリーダイヤル　0120-156269
受付：月曜～金曜　9:00～17:15 (祝日、弊社休業日を除く)

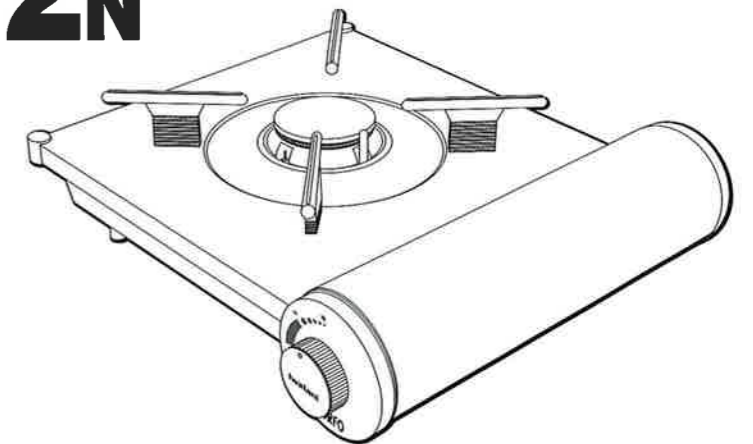
アモルフォ②N
08,10

Iwatani

ご使用前に必ずこの「取扱説明書」をお読みください。

取扱説明書

イワタニカセットフー

AMORFO-2N

このたびは、お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本製品を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの「取扱説明書」をお読みください。
そして大切に保存してください。
保証書付：裏表紙が保証書になっています。

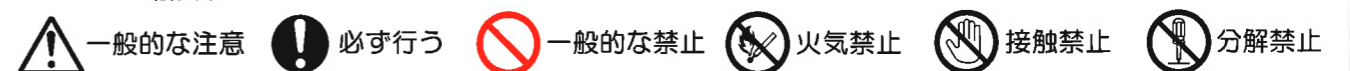
目次

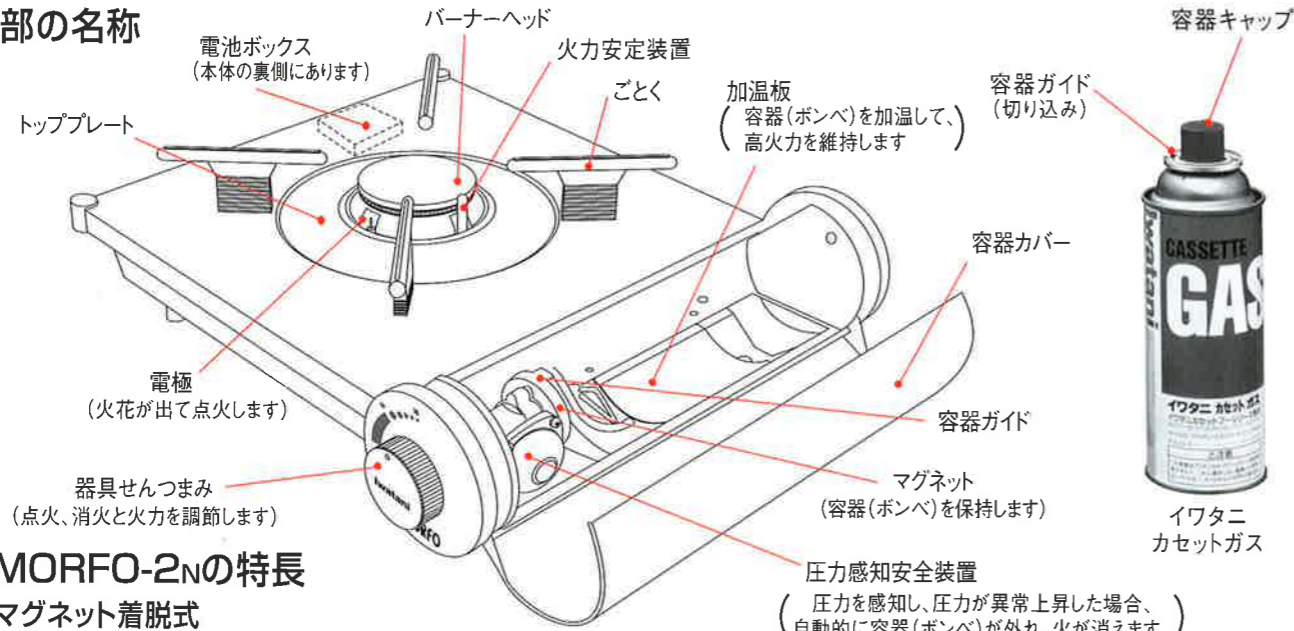
本商品は利便性を追求した簡易こんろです。 過酷な使い方、特殊なご使用をされますと、けがや火災など思わぬ事故の原因となったり、本商品の焼損の恐れがあります。 本取扱説明書に記載されている内容を十分ご理解の上でご使用ください。

〈ご使用の前に〉製品を正しくお使いいただくため、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この取扱説明書および製品への表示では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡または重症を負う可能性が想定される場合を表しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

絵表示について次のような意味があります。

⚠一般的な注意　必ず行う　一般的な禁止　火気禁止　接触禁止　分解禁止

各部の名称、仕様、特徴

■各部の名称

■AMORFO-2Nの特長

●マグネット着脱式

容器（ボンベ）の取り付け、取り外しが簡単なマグネット着脱式を採用しています。万一、容器（ボンベ）が過熱しても自動的に容器（ボンベ）が外れ、火が消えて安全です。（5 ページの「器具の使用方法について」を参照してください）

●火力安定装置

火力安定装置の採用により、バーナーの熱を容器（ボンベ）に伝えて、容器（ボンベ）内ガスの気化を促進させ、高火力を維持することができます。
［このため容器（ボンベ）が熱くなりますが、異常ではありません］

危険防止のための2つの安全装置

[1]圧力感知安全装置

容器（ボンベ）が過熱され容器内の圧力が異常上昇したときに、自動的に容器（ボンベ）がはずれ、ガスの流れが止まり、こんろの火を消す装置です。

圧力感知安全装置が作動したときの処置方法

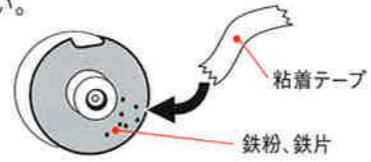
① 器具せんつまみを「消」の位置に戻してください。
② 容器（ボンベ）をこんろから取り出してください。
③「特に注意していただきたいこと」をよく読んで、原因を取り除いてください。
④ 新しい容器（ボンベ）をセットしてください。
［新しい容器（ボンベ）がない場合には、外した容器（ボンベ）を水で冷やしてからセットしてください。**冷やさないと、再び容器（ボンベ）が外れることがあります。**］
⑤ 点火してください。もとどおり正常に使えます。

[2]容器装着安全装置

器具せんつまみが「消」になっていないと、容器（ボンベ）が装着（セット）できないようにした安全装置です。

■ボンベ装着時のご注意

マグネットの鉄片や鉄粉が付着するとガス漏れや容器（ボンベ）がセットできなくなる場合があります。付着したときは、粘着テープを使って取り除いてください。

粘着テープ
鉄粉、鉄片

容器（ボンベ）装着時にマグネットに付着物がないか確認してください。

容器ガイド
マグネット
圧力感知安全装置
容器装着安全装置

■主な仕様

機種名	イワタニカセットフー
型式	アモルフォ②N
点火方式	連続スパーク点火方式
安全装置	圧力感知安全装置（容器離脱型） 容器装着安全装置
最大外形寸法（使用状態）	350mm(幅)×314mm(奥行)×100mm(高さ)
本体重量	約2.1kg
使用ガス	ブタンガス
出力（ガス消費量）	2.8kW(2400kcal/h 203g/h)<気温20~25℃>
連続燃焼時間	イワタニカセットガス使用時:約85分 <最大火力で新品容器(ボンベ)を全て使用した時の実測値。気温20~25℃>
使用容器	イワタニカセットガス
使用できる鍋の大きさ	目安として土鍋9号まで

JGKA (社)日本ガス石油機器工業会登録品

特に注意していただきたいこと

■容器（ボンベ）の過熱注意

⚠警告 次のような使い方は容器（ボンベ）が過熱し、爆発の原因となりますので絶対にしないでください。また、安全装置の作動を招く原因となります。

焼肉等の調理の際は、弊社別売の「達人アクセサリーシリーズ」以外はご使用にならないでください。こんろの焼損等の事故になるおそれがあります。

1）調理容器の空だきは絶対にしない

本体内に熱がこもり、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

2）容器カバーを覆ってしまう大きな調理器具は使用しない

本体内に熱がこもり、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

小さい鍋をご使用になる際は、鍋が安定して載っていることを確認後、ご使用ください。鍋が転倒するおそれがあります。

3）2台以上並べて使用しない

本体内に熱がこもり、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

●2台以上並べての使用は非常に危険ですので、絶対におやめください。

4）調理以外の用途には使用しない

輻射熱により、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

●調理以外の用途（木炭、練炭などの火起こし等）に使用しないでください。

5）セラミック付焼網器、石板、陶板、セラミックを使用した焼肉器、輻射熱の強い調理器具等は絶対に使用しない。またアルミホイルなどで、ごとくや焼き網等を覆ったりして使用しない

輻射熱により本体内に熱がこもり、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

6）石や砂、陶器などを使った焼きイモ器を使用しない

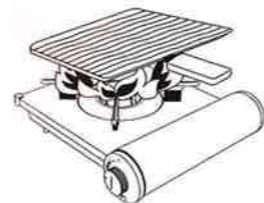
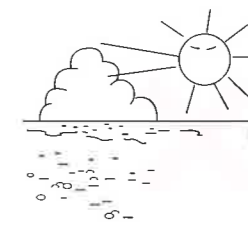
本体内に熱がこもり、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

7）電磁調理器・電熱器など熱を発生する器具の上では使用あるいは保管しない

間違って電源が入ると、容器（ボンベ）が過熱され爆発するおそれがあります。

8）火気の近くでは使用しない

火気からの輻射熱により、容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

●火気から2m以上離して使用してください。

9）容器（ボンベ）が過熱する場所では使用しない

容器（ボンベ）が過熱して爆発するおそれがあります。

●夏の砂浜、砂利、アスファルトなど日光によって容器（ボンベ）が過熱するような場所では使用しないでください。

10）強い風のところでは使用しない

強い風のところで使用すると、バーナーの炎がこんろ本体に巻き込み、事故、本体焼損の原因になります。

特に注意していただきたいこと

■使用容器(ボンベ)とその取扱について

⚠警告

1）火気や直射日光を避ける

火気や直射日光(室内や車内の窓際なども含む)を避けて容器キャップをはめてから風通しがよく湿気の少ない40℃以下の場所で保管してください。また使用後は容器(ボンベ)をこんろから取りはずし、同様の場所に保管してください。

2）完全に使い切ってから廃棄する

●使用済み容器(ボンベ)は、必ず完全に使い終わってから地域の取り決めに従って分別廃棄してください。容器(ボンベ)にガスが残っていますと清掃車の火災のおそれがあります。
●容器(ボンベ)を振ってサラサラと音がする場合には、まだガスが残っています。湯を沸かすなどして使い切ってください。

3）熱気のあたる場所に放置しない

容器(ボンベ)はファンヒーターやオーブントースターなど熱気を発生させる器具の周囲や、熱気のあたる場所には放置しないでください。熱で容器(ボンベ)内の圧力が上がり、爆発の原因になります。

4）容器(ボンベ)は火中に投じない

容器(ボンベ)は火中に投じないでください。火中に投入すると爆発し危険です。

⚠注意

1）専用容器(ボンベ)を使用する

容器(ボンベ)は、必ず「イワタニカセットガス」の表示のある専用容器(ボンベ)を使用してください。他の容器(ボンベ)を使用するとガスが漏れたり、正常な使用ができない場合があります。

2）落下させるような場所で容器(ボンベ)を保管しない

落下による破損やガス漏れによる引火のおそれがあります。

お願い

●容器(ボンベ)に表示されている注意事項を、必ずお読みください。
●使用時は容器キャップをはずし、保管のときは容器キャップを押し込むだけにしてください。
●保管している容器(ボンベ)は、ときどき点検して、さびが発生している場合は、ガス漏れがないことを確認してできるだけ早くご使用ください。
●容器(ボンベ)のガスを故意に吸い込まないでください。人体に害を与えることがあります。

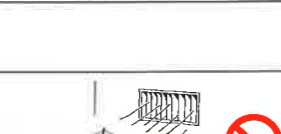
■使用場所についてのご注意

⚠警告 次のような場所では火災の原因となりますので使用しないでください。

●引火物(ガソリン、灯油、ガスなど)が近くにある場所
引火による爆発のおそれがあります。

●カーテンなどが触れる場所や燃えやすいもの、熱に弱いもののそば
引火による火災のおそれがあります。

●落下物の危険がある場所
引火や調理器具の転倒によるやけどのおそれがあります。

●熱気のあたる場所
過熱により爆発するおそれがあります。

●風の吹き込む場所や風を吸い込む場所
風により炎が横に流れたり、本体内に吸い込まれたりして、本体やテーブルをこがすことがあります。

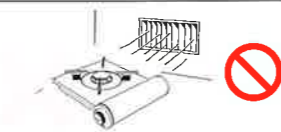
⚠注意

■屋外で使用するときは次のことを注意してご使用ください

●直射日光のあたる場所では使用しない ➡ 容器(ボンベ)が過熱され爆発のおそれがあります。

●地面の熱くなっている場所では使用しない ➡ 地面からの熱で容器(ボンベ)が過熱され爆発のおそれがあります。

●こんろの底が砂や小石などで埋まる場所では使用しない ➡ 放熱が悪くなり、容器(ボンベ)が過熱され爆発のおそれがあります。

●強い風が吹き込んでいる場所では使用しない ➡ 炎が吹き消され、ガス漏れを起こす場合があります。

⚠注意

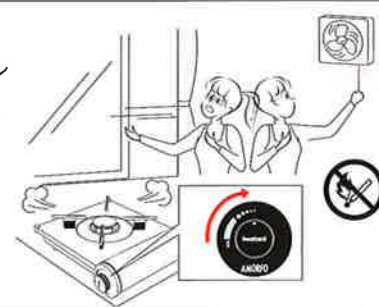
●風の吹き込む場所では使用しない ……….風により炎が吹き消されることがあり危険です。
●不安定な場所では使用しない ……………不安定な場所で使用すると、こんろがひっくり返り危険です。
●タタミやジュウタンなど燃えやすいものの上では使用しない
●こんろの底部から空気や煙などを吸い込む場所(無煙ロースターのテーブル等)では使用しない

特に注意していただきたいこと

■火災事故、ガス事故防止のために

⚠警告 火災予防、ガス事故防止のため、次のことをお守りください。

●ガス漏れに気づいたら、すぐに火を消す

ガスが漏れるとガスのニオイ(くさった玉ねぎのようなニオイ)がします。ブタンガスは空気より重く下部にたまりますので、電気製品のスイッチを入れたり、火気の使用をしないで、すぐに次の処置を行ってください。
(引火により爆発のおそれがあります)
① 直ちに火を止める。(器具せんつまみを「消」の位置にする)
② 容器(ボンベ)をはずす。
③ 窓や戸をあけて漏れたガスを外に追出す。(換気扇は使用しないでください)

●使用中は換気をする

ご使用と同時に換気扇を回すなど換気にご注意ください。
長時間しめきった部屋で使用すると、酸欠や酸素不足による不完全燃焼で一酸化炭素中毒のおそれがあります。

●予備の容器(ボンベ)やヘアスプレーを置かない

こんろを使用中、近くに予備の容器(ボンベ)やヘアスプレーなどを放置しないでください。
引火や爆発のおそれがあります。

●火を付けたまま側を離れない

火を付けたままで外出など、こんろのそばを離れたり、就寝しないでください。
●電話や来客などの場合も、いったん火を消してください。
●特にてんぷら揚げをしている時は危険です。

●子供だけで使わせない

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わないでください。

●こんろを衣類の乾燥やストーブの代わりに使用しない

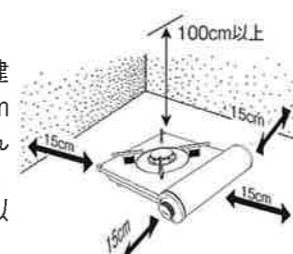
衣類が落下するなど、火災の原因となります。

●テント内や車内など狭い場所では使用しない

テント内や車内など狭い場所で使用されますと一酸化炭素中毒により死亡するおそれがあります。
テント内や車内など狭い場所では絶対に使用しないでください。

⚠注意

■周囲の防火措置

●使用の際には家具や壁(木造建築)などの可燃物から周囲15cm以上離してご使用ください。こんろ上方と、可燃性の天井、棚、電気器具などの間は100cm以上離してください。

●塗装、うるし塗りなど熱に弱いテーブルの上でご使用のときは不燃性の断熱材をこんろの下に敷いてください。(使用中のこんろの底部はたいへん熱くなっていますので十分ご注意ください)

●調理以外に使用しない
過熱や異常燃焼などによる焼損や火災などの危険があります。

●火のついたまま傾けたり、移動させない
転倒するとやけどや火災の原因になります。

●こんろのバーナー付近に顔や手を近づけない
炎によりやけどのおそれがあります。

●使用中および消火後しばらくはこんろに触れない
使用中および消火直後のこんろは高温になっています。
しばらくは器具せんつまみ以外には手を触れないでください。

●こんろの下に燃えやすいもの、熱に弱いもの(テーブルクロス、ビニールクロス、新聞紙など)を敷いたり、通気の妨げになるものを置かないでください。

お願い

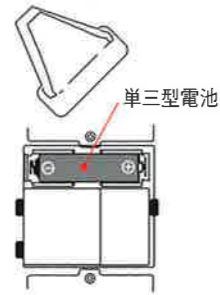
●使用時の点火、使用後の消火のほか、使用中も時々燃焼していることをお確かめください。
●あまり炎が小さすぎると、風で消されることがありますのでご注意ください。
●ご使用の有無にかかわらず、古くなったこんろは、安全のためご使用前に点検修理をご依頼ください。

器具の使用方法について

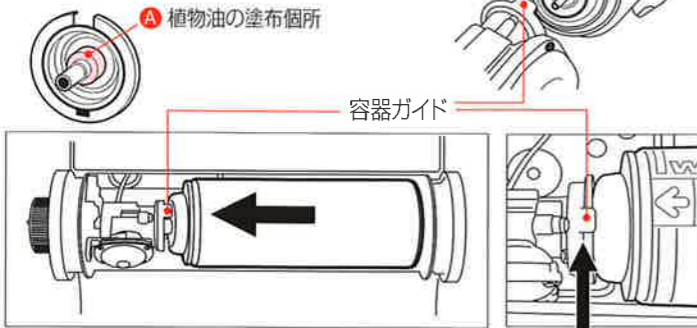
■使用前の準備と確認

乾電池の取り付け

●こんろを裏返し、電池ボックスの中に乾電池（単三型）を正しくセットしてください。＋（プラス）、－（マイナス）を間違えないようにしてください。

単三型電池

容器（ボンベ）の取り付け

●容器カバーを開けてください。
●器具せんつまみを「消」の方向 へ止まるまで回してください。
●マグネットに異物が付着していないか確認してください。
●容器（ボンベ）の容器キャップをはずしてください。
●加温板に容器（ボンベ）を載せ、この容器（ボンベ）の切り込みを容器ガイドに合わせます。そして、容器（ボンベ）の頭近くに手を添えて、そのまま水平にスライドさせ、完全にマグネットに密着するまで押しつけて装着します。

※容器（ボンベ）の取り付け（装着）力が重い場合には、容器（ボンベ）の先端（下図Ⓐ）に植物油を薄く塗ってください。

イワタニカセットガス使用時

マグネットと容器（ボンベ）の間に隙間がないように確実に取り付けてください。

●容器（ボンベ）を装着しましたら容器カバーを閉じてください。

■使用方法

1. 点火する

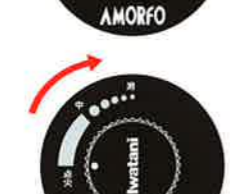
●器具せんつまみ（器具せんつまみは連続スパーク点火方式）を、ゆっくりと左方向へ"チ、チ、チ"と音がするまで回して、点火したことを確認してください。

2. 火力を調整する

●つまみを「点火」方向に回すと火力を強く、「消」方向に回すと弱くすることができます。とろ火にする場合は必ず炎を確認してください。とろ火の場合、炎が見えにくくなります。

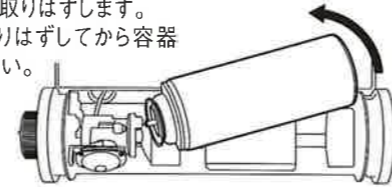
弱く
強く

3. 消火する

●器具せんつまみを「消」方向に止まるまで戻し、消火してください。

4. 使用後の確認

●使用後は、完全に火が消えたことを確認してください。
●使用後は、必ず容器を取りはずしてください。
　※消火直後は本体・容器（ボンベ）とも熱くなっていますので、しばらくたってから容器（ボンベ）を取りはずしてください。
　※容器（ボンベ）を取りはずさないと、器具の故障やガスが漏れる恐れがあります。

5. 容器（ボンベ）を取りはずす

●容器カバーを開け、容器（ボンベ）の底部を持ち上げながら取りはずします。
●容器（ボンベ）を取りはずしてから容器カバーを閉じてください。

■ご使用前に下記の注意事項をよくお読みください。

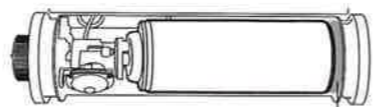
⚠警告 ●使用前には、必ずガス漏れの確認、点火、消火の確認をしてからご使用ください。
●故障または破損したものと思われるものは絶対に使用しないでください。

⚠注意 ●器具せんつまみが「消」の位置にないと容器装着安全装置（P1 参照）が働き、容器（ボンベ）が装着できません。

⚠警告 ●容器（ボンベ）を確実に装着しないとガスが漏れて火災の原因となります。

⚠注意 ●未点火の状態でつまみを「消」以外の位置にしておくと生ガスが出て危険です。
●使い始めのときや、容器（ボンベ）の温度が高いときには点火しにくい場合があります。注意しながら数回、点火操作を繰り返してください。
　※点火ミスにより繰り返し点火操作をした場合、「ボッ」という音がして少し炎が上がる場合があります。点火操作を行う場合は、顔や手をバーナーに近づけないでください。
●点火したときに、バーナーより炎が離れて燃焼していることがありますが、異常ではありません。2～3分間、器具せんつまみを少し絞って使用してください。
●点火しない場合は、次のことを確認してください。
　・乾電池が正しくセットされているか。
　・乾電池が消耗していないか。

⚠注意 ●炎を小さくしすぎると、風で消えやすくなりますので、ご注意ください。

⚠警告 ●容器（ボンベ）の底部と、本体の間に物（小石や厚紙の束など）をはさまないでください。圧力感知安全装置が働かなくなり、容器（ボンベ）が爆発するおそれがあります。

⚠注意 ●容器（ボンベ）を取りはずした後も、こんろの配管には少量のガスが残っています。危険防止のため、もう一度残っているガスを燃焼させてください。

日常の点検・手入れ、故障・異常時の処置

■点検・手入れの際のご注意 日常の点検、手入れは必ずおこなってください。

点検	手入れ方法	ご注意
煮こぼれの有無	固く絞った布で煮こぼれをふき取ってください。汚れのとれにくいときは中性洗剤で手入れした後、乾いた布で、十分に水気を取っておいてください。	手入れの際は、ガス導管（銅パイプ）を動かさないでください。
バーナーの目づまり	ブラシや千枚通しなどできれいに掃除をしてください。（このとき、電極の位置を動かさないようにしてください。）	不完全燃焼、あるいは炎の不揃いの原因になります。バーナーはつねにきれいにしておいてください。
電極の汚れ（点火しなくなった場合）	電極の汚れは、乾いた布で力を加えず軽く、ふきとってください。	点火不良の原因となります。お手入れのとき、器具せんつまみを点火方向に操作すると感電することがあります。
本体・容器（ボンベ）の汚れ	乾いた布でよく拭いてください。汚れのとれにくいときは、中性洗剤で手入れした後、乾いた布で十分に水分を取っておいてください。	シンナー・ベンジン・みがき粉などの使用は、表面を傷つける恐れがあります。また、ナイロンたわし・金属製のたわしでこすると、本体や容器（ボンベ）を傷つけます。

⚠注意
●手、指の保護のため、必ず手袋などを使用してください。
●本体の丸洗いは絶対におやめください。ガス通路に水が入ると、ガスが出なくなったり、サビの原因となります。
●点検・手入れの前には、必ず容器（ボンベ）を取り外してください。
●点検、手入れはこんろが冷えてからおこなってください。
●ガス通路部分は絶対に分解しないでください。
●特に煮こぼれしたときは、必ずバーナーヘッドの清掃をおこなってください。

■長期間使用しないとき

●本体などが汚れていないか、よく乾いているか確認してください。
●器具の各部が十分冷えてから、梱包箱または袋に入れて、湿気の少ない場所に保管してください。
●こんろに容器（ボンベ）をセットした状態のままで保管することは絶対におやめください。別々に保管してください。
●こんろは、ときどき点検して、さびたりしないように、手入れをおこなってください。

■故障・異常の見分けかたと処置方法

原因＼現象	点火しない・点火しにくい	バーナーに火移りしない	黄炎で燃える	炎が安定しない	炎が不揃い	火力が弱い	ガスのにおいがする	使用中に消火した	消火しない	容器(ボンベ)がセットできない	器具せんつまみを「消」にしてもガスがもれる	処置方法
他社容器（ボンベ）を使用している	●									●	●	イワタニ専用容器（ボンベ）を使用する
ガスが少なくなっている	●	●				●		●				新しい容器（ボンベ）に取り替える
電極部の汚れ・水分の付着	●											汚れ・水分をふきとる
バーナーの炎口部、目づまり	●	●	●	●	●	●						金属ブラシなどで、目づまりを取り除く
点火操作が適切でない	●						●					正しい点火操作をする
ノズルがつまっている	●	●	●	●		●		●				点検修理を依頼する
器具せんの故障	●						●		●		●	同上
圧力感知安全装置が作動	●							●		●		原因を除去してリセットする
点火装置の故障	●											点検修理を依頼する
器具せんつまみが全開でない						●		●				器具せんつまみを全開にする
器具せんつまみが「消」になっていない										●		器具せんつまみを「消」にしてセットする
容器（ボンベ）のセット不良	●						●			●	●	容器（ボンベ）の容器ガイドを正しくセットする
マグネットに鉄片、鉄粉が付着										●		粘着テープで鉄片、鉄粉を取り除く
本体が変形している（歪み）										●		点検修理を依頼する
電池が切れている	●											新しい電池に取り替える
㊥以下で使用						●		●				㊥以上で使用

■このような時は故障（異常）ではありません

こんろを使用中に次のような症状が起こりましたら故障ではありません。処置方法を参考に対処してください。

現象	原因	処置方法
■点火しにくい ●電極からバーナーに火花が飛ばないで違うところに飛んでいる。 ●急に火花が飛ばなくなった。	1）電極とバーナーとの間隔がずれています。 2）電極の白い部分（セラミック）に水滴が付着しているか汚れています。	●電極とバーナーとの間隔がずれると火花が飛ばなくなったり、別の方向に飛んで点火不良になります。火花の飛ぶ方向を調節してください。 ●水分、汚れにより漏電しています。取り除くとなおります。
■使用中、容器（ボンベ）にガスが残っているのに火が消えた。	1）異常な使用のために容器（ボンベ）の温度が高くなって、**圧力感知安全装置が働いています。**	●P1の「圧力感知安全装置」が作動したときの処置方法に従って復帰させてください。
■容器（ボンベ）が装着できない。装着してもすぐはずれてしまう。	1）保管場所の温度が高く、容器（ボンベ）の温度が高くなり、**圧力感知安全装置が働いています。**	
	2）マグネットに異物が付着しています。	●P1の「ボンベ装着時のご注意」に従って異物を取り除いてください。
	3）器具せんつまみが「消」になっていません。	●器具せんつまみを「消」方向に止まるまで戻してください。
■点火操作中に「ボッ」という音がして少し炎が上がる。	—	●故障ではありません。そのままお使いください。 ※点火操作を行う場合は、顔や手をバーナーに近づけないでください。
■消火時に「ボッ」という音がする。	—	●火が消えたときの音で異常ではありません。そのままご使用ください。
■購入してから初めて使用すると電極の周りの炎が赤くなる。	—	●数回使用すると赤い炎は消えます。そのままご使用ください。